



## ドイツ・ハンブルク大学

K 類日本研究専攻

加瀬 和丸

留学開始時の学年：3年生

留学期間：2015年8月、2016年10月

～2017年9月

### 1 度目のドイツ留学

1 度目のドイツ留学として、私は 2015 年 8 月にハンブルク大学で、毎年実施されている 1 ヶ月のサマースクールに通いました。よく「短期留学」と言われるものです。

サマースクールでは、基本的に午前中、ドイツ人の先生にドイツ語で授業を受けます。午後は 16 時ぐらいまでであり、クラスごとに日本人の先生に授業で分からなかったところを質問する時間や大学で日本学を専攻している学生と宿題をする時間が設けられていました。

滞在中は、大学の寮で生活します。寮にはお風呂はなく、シャワーだけです。また共同のキッチン（冷蔵庫付）があり、地下に洗濯機もあります。サマースクールには日本人学生だけでなく、韓国や台湾からの学生も参加しています。彼らと観光をしたり、一緒に食事をしたりもできました。

ハンブルク大学のサマースクールは、授業料、宿泊費、定期代、遠足の費用などで 1,500 ユーロ（約 18 万円）かかります。これに往復の航空券を含めて、合計 35 万円ぐらいです。それなりの値段はしますが、様々な面でのケアが行き届いており、初めて海外に留学する場合でも安心です。

### ハンブルクの町と大学

ハンブルクはドイツ北部に位置し、ベルリンに次ぐドイツ第 2 の都市です。また、エルベ川が市内を流れている港町でもあり、そこでは毎週日曜日に魚市場が開かれ、大勢の人で賑わいます。ドイツで最も美しいとされる市庁舎（右の写真）やミニチュアワンダーランドなどの観光地も多くあり、デュッセルドルフに次いで日本人が多い町とも言われています。町が高緯度に位置しているため、夏は 22 時頃まで明るいのにに対し、冬は 16 時には暗いです。冬は朝方も暗く、小学生が暗い中を登校するという風景は日本ではなかなか見られないでしょう。



ハンブルク大学は 40,000 人以上の学生が在籍する総合大学です。サマースクールや日本からの留学生の窓口となっている日本学部は、ドイツでは最も古く、100 年以上の歴史を持

っています。

ハンブルク大学をはじめとしてドイツの大学では、多くの国からの留学生がいます。ドイツ語と日本語など、互いに異なる母語を持つ学生が言語を教え合うタンデムというものもよく行われており、カフェに入るとドイツ語や英語はもちろん日本語、韓国語、中国語、アラビア語など多くの言語が飛び交っています。

## 2度目のドイツ留学

短期留学をきっかけに、もっとハンブルク大学で学んでみたいという気持ちになり、今回の交換留学に至っています。現在、6ヵ月目になります。

まず授業ですが、留学生向けのドイツ語の授業、ドイツの学生と一緒に独文和訳や和文独訳をする授業を履修しています。そのほか日本語を学んでいるドイツ人学生の授業をサポートしています。

以前から外国人への日本語教育に興味を持っていたこともあり、日本語に関する授業を多く履修しています。もちろんハンブルク大学は総合大学なので、教育学や政治学だけでなく、自然科学系の科目も履修することもできます。

ドイツの大学で学んでいて、日本との違いに驚いたことがあります。それは授業中での質問や発言です。授業中、先生の話が分からなかったり、先生と違う意見を持っていたら、すぐに手を挙げて発言します。授業でどれだけ自分をアピールするかということが授業評価に繋がることが多いこともありますが、グローバルスタンダードでは自分をアピールすることが重要だと認識しました。またドイツでは、授業が終わった後に、机を握り拳でトントントンと叩きます。これは拍手代わりとされています。

ハンブルグ大学では学食（「メンザ」とドイツ語では言います）があり、学生は定食を3ユーロ（360円）ぐらいで食べることができます。バイキング方式もあり、自分の好きなものを選んで食べられます。ドイツの料理はボリュームがあるので、日本人の学生にはバイキング方式が重宝されています。パスタやステーキもちろんありますし、ベジタリアンメニューもあつたりと、様々なメニューが提供されています。ドイツ留学生活では、メンザでの食事もしみの一つです。

それからドイツの生活で驚いたこともあります。ドイツでは日曜日は中央駅構内以外のお店がほぼすべて閉まります。それにドイツには、コンビニがないんです。またドアを開けたり、道を譲ったりするなど、些細なことでも、必ず笑顔で「Danke（ありがとう）」「Bitte（どういたしまして）」のやり取りがあります。

ドイツという新しい環境の中で、日本では経験できなかったことを次々と経験できていきます。日本では気が付かなかった日本の新しい側面が見えたりと、日々自分が成長してゆくことを実感できるのも、毎日の楽しみです。

